

令和 8 年度 社会資本整備総合交付金 通学路交安事業 測量設計業務委託 特記仕様書

第 1 章 総則

第 1 条 適用範囲

1. 本特記仕様書は、「令和 8 年度 社会資本整備総合交付金 通学路交安事業 測量設計業務委託 市道新春日街道線 駒ヶ根市 南原（以下、「本業務」という。）」に適用する。

第 2 条 業務管理

1. 受託者は委託契約書、設計図書、長野県測量業務共通仕様書・用地調査等業務共通仕様書及び特記仕様書・設計業務等共通仕様書、本特記仕様書、業務打合せ書及び関係法規を尊重し、監督員の指示を受け正確に施行しなければならない。

第 3 条 履行期間

1. 本委託の履行期間は、契約書に定めた期日とする。

第 4 条 秘密の保持

1. 受託者は、業務内容及びその成果を発注者の承認を得ずに第三者に知らせてはならない。

第 5 条 資料の貸与

1. 受託者は契約遂行に必要な関係書類の貸与を委託者に申し出ることができる。

第 6 条 作業の確認

1. 受託者は、作業の進捗状況を随時監督員に報告しなければならない。

第 7 条 中間成果の提出

1. 受託者は、業務の途中において委託者より中間成果を求められた時はその指示により提出するものとする。

第 8 条 適用図書

1. 設計に基づく適用図書及び参考図書は下記のとおりとする。
 - ① 設計基準（１）（長野県建設部）
 - ② 設計基準（２）（長野県建設部）
 - ③ 土木構造物設計基準（長野県建設部）
 - ④ 道路構造令
 - ⑤ 道路構造令の解説と運用
 - ⑥ 国土交通省公共測量作業規定
 - ⑦ 長野県公共測量作業規程

- ⑧ 長野県測量作業要領
- ⑨ 長野県設計業務共通仕様書
- ⑩ その他必要と認められるもの

第9条 成果品

1. 図紙は長野県土木規格のものとし、その大きさはA1判を標準とする。ただし、規格に合わないものが出た場合は、監督員と協議し変更できるものとする。なお、上記A1判のほかに縮小版（A3を標準）を提出する。
2. 実施施工にあたり、必要な注意すべき問題点については、設計図又は報告書に明示する。
3. 報告書には、概要説明、検討経過、問題点、各種数量総括表を含むものとする。
4. 各設計図には、すべて右端下へ監督員指示による表題欄を設ける。
5. 報告書の末尾には、設計担当者及び照査の所属、氏名を必ず記載すること。各図面の原図の欄外（青焼時に切り取る部分）右下には、会社名、設計担当者及び照査の所属、氏名を必ず記載すること。
6. 本業務の成果品は2部とする。路線ごとに成果品を分割すること。
7. 図面及び数量、報告書については、電子納品とする。
CADデータのフォーマットは、SXF（P21）形式とする。
数量、報告書のファイル形式はExcel、Word形式とする。

第2章 路線測量

第1条 線形決定

1. 現地の状況と条件点観測の結果を考慮し、新計画幅員を踏まえ線形決定を実施する。

第2条 現地測量

1. 地形測量の測量区域は、中心線より左右各20m程度の範囲とし、測量区域内の行政区域、地目、地形、工作物、構造物、庭園、立木、電柱類、建物壁、軒先、横断水路等すべて記入するものとする。また、家具等には住人の氏名、商店、会社、官公署等の名称、河川路線名及び水流方向を記入するものとする。詳細に測量を行うこと。

第3条 IP設置測量

1. 現地に即した場所へIP設置を行なうこと。
2. 単曲線換算曲線数は1Km当たり4箇所とした。

第4条 中心線測量

1. 中心点の間隔は20mとし、縦断地形の変化にはプラス杭をおくものとする。
2. 単曲線換算曲線数は1Km当たり4箇所とした。

第5条 縦断測量

1. 縦断図には、BM（仮BM）、その他計画上必要な杭高、地盤高及び中心線と交差する道路橋、水路、暗渠、取入口、排水口等を測定し、構造規格の分かるものは記入するものとする。

第6条 横断測量

1. 横断測量の範囲は、中心線の接線に対し直角に中心線から左右20m未満の範囲で行うものとする。なお、現地状況等により20m以上必要となる場合には別途協議する。
2. 横断の間隔は20mピッチとするが、必要に応じてプラス測点も横断測量を実施すること。
3. 単曲線換算曲線数は1Km当たり4箇所とした。

第3章 道路詳細設計

第1条 設計内容

1. 本業務における設計区分は「道路詳細設計（B）」であり、線形を決定し詳細設計を行い、工事に必要な平面図、縦横断面図、小構造物等の詳細構造図、用排水設計、設計計算書、工種別数量計算書等を作成するものとする。
2. 設計条件については設計書に記載のほか以下になる。
 - 暫定計画あり
 - 歩道設計あり
 - 取付道路、付替水路、横断管渠等設計いずれかあり
 - 道路環境関連施設設計なし
 - 特殊法面設計なし
 - 成果品分割なし
 - 路床入替及び車線変更に対する設計なし

第2条 設計条件

1. 設計速度は一般部 50 km/h、幅員 $W=9.25m(2.0-0.5-3.0-3.0-0.75)$ を標準としているが、地権者との協議により幅員を見直す可能性がある。
2. その他詳細については、監督員と協議する。

第3条 平面設計

1. 実測成果を用い線形、現地状況、民地土地利用状況等現地を熟知し、コントロール物件を考慮のうえ、設計する。
2. 平面図には法尻線、用地界線、構造物等はすべて記入する。なお、測点間隔は原則として20mごととするが、地形、構造物等変化点、取付道路、民地出入口等については、適宜測点を追加し、プラス杭を記入する。

第4条 縦断設計

1. 実測成果を用い横断水路、支道交差、水路、路面排水及び民地高等を考慮のうえ、設計する。また、民地出入り口及び既存道路接続部においては片勾配の影響を配慮し縦断検討を行うこと。
2. 縦断図には横断構造物はすべて記入する。
3. 既存道路接続部の縦断線形に十分配慮すること。

第5条 横断設計

1. 実測成果を用い平面設計、縦断設計に基づき現地状況に即した設計をする。
2. 横断図には本線、支道ともに幅員、路盤厚、構造物等はすべて記入する。測点間隔は平面図に同じ。
3. 横断図には、用地境界の位置を記入すること。

第6条 小構造物、その他

1. ブロック積擁壁、重力式擁壁、側溝等の小構造物は、現地状況に即した設計をする。
2. 重力式擁壁等で特に応力計算を必要としない簡易構造物については、本委託に含まれる。
3. 排水系等について検討し、系統図を作成する。
4. 国土交通省及び長野県の土木構造物設計基準を原則として使用し、特別の場合は監督員と協議して使用する。

以上